

【抗議声明】

原子力空母ロナルド・レーガンの横須賀入港・配備に抗議し、原子力空母ロナルド・レーガンの横須賀母港化撤回を強く要求する。

2015年10月1日

原水爆禁止神奈川県協議会

10月1日午前8時40分、米原子力空母ロナルド・レーガン(RR)が、横須賀基地に初入港した。今回の原子力空母RRの横須賀入港は、原子力空母ジョージ・ワシントンの後継艦として横須賀に配備されたもので、横須賀を原子力空母の永久母港化とするものであり、原水爆禁止神奈川県協議会は、怒りを持って抗議し、原子力空母RRの横須賀母港化撤回を強く要求する。

今回の原子力空母R・Rの横須賀入港・配備は、次の3点で重大である。

第1に、原子力空母R・Rの横須賀入港・配備は、これまで42年も続いた空母の横須賀母港を永久に続け、核も基地ない平和な神奈川を求める県民の願いを踏みにじるものであり断じて許すことができない。原子力空母の横須賀母港が続くことは、空母艦載機の爆音被害、米軍機の墜落・落下物事故、米兵犯罪の増大につながるものである。県民の生活と命・財産を脅かし、「戦争はしない」と決めた日本国憲法9条の立場とは相容れないものである。戦争のための艦船である原子力空母の永久母港化に断固反対し、撤回を強く求めるものである。

第2に、国内原子力発電所の原子炉に相当する原子炉2基を搭載する原子力空母RRの横須賀入港・配備・母港化は、国内の原発再稼働に匹敵するものであり、3000万人の首都圏住民を原子力空母の原子炉事故の危険にさらすものである。原子力空母の原子炉の安全性の検証と情報公開がされず、日米の原子炉事故対策も国内の原子力発電所の対策と比較しても極めてずさんなものであり、まともな事故対策マニュアルも策定されていない。さらに、2011年に4回にわたって、原子力空母ジョージ・ワシントンが日本の排他的水域において原子炉の過剰液体廃棄物処理タンクから船外にポンプ排水(一次冷却水の放出)を行っていたことも米国の情報公開資料で明らかになっている。

県民の原子力艦船の原子炉事故等の不安や疑問に対して、米軍はまともな検証も情報公開もせず、「原子力空母は100%安全だ」という「安全神話」を押しつけている。首都圏の巨大地震発生の確率が増大している中で、住民を放射能被害の危険にさらし続ける原子力空母RRの横須賀母港化は、この点でも到底認められない。

第3に、原子力空母ロナルド・レーガンの横須賀配備は、横須賀をアメリカの世界戦争の出撃拠点とするものであり、国民の強い反対の中で成立した「戦争法」体制の下で、日米一体化で横須賀基地がいつそう強化されるものである。これは、憲法9条の持つ国が、アメリカの世界戦争に米軍と一体となって参加することにつながるものであり断じて許されない。

原水爆禁止神奈川県原水協は、以上の3点をふまえ、今回の原子力空母ロナルド・レーガンの横須賀配備及び母港化に対し強く抗議するとともに、原子力空母及び原子力潜水艦の横須賀入港・母港化撤回を要求する。

われわれは、今後も県民とともに、原子力空母・原子力潜水艦の横須賀入港に反対し母港撤回を要求し、核も基地もない平和な神奈川をめざし運動をすすめる決意を表明する。

／以上